

町の活性化策としての提案

未利用財産を有効利用した事業の可能性？

福岡県と熊本県境に位置する人口1万3千人の黒木町は中山間地特有の高齢化と人口の減少などが顕著で町の活性化は緊急の課題である。

小学校の統廃合により現在4つの小学校が廃校となり2つの保育所が未利用になっている。(内1つの小学校は都市と農村の交流施設としてワーキングホリデーの活動宿泊拠点としてつかわれている。

奥八女地方は昔から林業が盛んで、豊富な森林資源があり森林組合(黒木町、星野村、矢部村)は林業に関する経験と技能を持つ組合員を多数有している。

この地域には昔から徒弟制度で培われた技術を持った大工、左官を生業とする人達が多く遠く福岡、北九州方面からも「黒木の大工さん」と重宝がられてきた。また、家具のまち大川には当地方から多くの若者が家具、民芸具職人として技を身につけるために出かけていった。

一方若い世代に”ひきこもり“”登校拒否“”ニート“とよばれ人間として生きていくための目的や意欲をみいだせないまま 悶々とした日々を送っている人達がいる。あちこちにこうした人達を「支える会」や「親の会」が出来て彼らの明るい将来のために何かやらなければと思っている。そこで、

山の中の廃校舎を「ものづくり学校」、「ものづくり塾」として再利用する。

指導、助言の先生 は地元の大工さん、左官さん、森林組合の林業家

(勿論その他の専門家に入ってもらうのは当然ですが)

豊富な森林資源を使った「奥八女の家」、「黒木産材を使った木の家」など自然素材で出来た家として都会の人に売り出して行く。また工作の好きな若者のこだわり民芸家具や小物づくり

その他民家の空き家や保育所などは楽器の練習場所、日曜ギャラリーまたは週末喫茶店などに利用しその周辺環境にまで影響を与えていく。

「棚田の稲刈り体験」「イチゴ摘み」などの交流を通して知り合った家族会の方から「小さい時から工作や物を作ることが好きだったが、現代教育の波の中で1点でもおおく点数をとることを教えてきた。気がついた今 好きなことをさせてくればよかったと思うが当時としては中学校を卒業して“弟子“になるということは選択技になかった。